

## &lt;レポート&gt;

## 第7回全環研水環境集会を終えて

平成9年に第1回の全公研水環境集会が札幌市で開催されて以来、日本水環境学会年会に併設して集会が実施されてきた。全国の自治体研究機関から水環境学会に参加される機会をとらえて、研究を進める上で必要な情報交換等を行うための集会として開催されている。第37回日本水環境学会年会が熊本市の熊本県立大学で開催されたことに伴い、地元研究所を中心に九州支部から世話人を選んで、開催の準備を進めた。

集会の内容は次のとおりである。

主 催：全国環境研協議会

日 時：平成15年3月4日(火)

18：10～20：10

場 所：熊本県立大学講義棟第11号教室

講 演：「水と大気」 梶田聖孝(九州東海大学農学部教授，大学院教授)

「環境試料中の超微量水銀の分析」 坂元隼雄(鹿児島大学理学部教授)

世話人：中村又善(福岡県保健環境研究所)

鈴木 學(北九州市環境科学研究所)

安藤章夫(大分県衛生環境研究センター)

青山好文(宮崎県衛生環境研究所)

廣野岩男(熊本市環境総合研究所)

植木 肇(熊本県保健環境科学研究所)

水環境集会は、全環研協議会企画部会(平成13～14年度部会長：愛知県環境調査センター所長)の事業として、水環境学会に併設して毎年実施されている。今回で7回目を数え、初の試みとして全環研協議会企画部会と環境生物部会(平成13～14年度部会長：北九州市環境科学研究所長)とがジョイントして開催した。

今回の集会内容は過去の話題やテーマ等と重複しないよう、さらに九州支部の世話人の意見等を参考に検討した。今回は特定のテーマは設けず、2つの講演を行った。

各会員機関への参加呼びかけは、会長から各支部長を経て2月初めに行い、申込み締切日までに

22研究所(地元機関を除く)から50名近くの参加希望者があった。当日は70名を超える参加者となり、西村健一熊本県保健環境科学研究所次長のあいさつのあと、盛況のなかで講演が行われた。

梶田聖孝先生には、水と生態系との関わりを通して水と大地という大きな視点で環境問題について講演をお願いした。世界各地の砂漠化現象、光と有機物の関係、植物生産における水と温度、陸圏と水圏のつながりなど、最新の研究成果を交えた広範囲にわたる示唆に富んだ講演であった。梶田先生は平成14年度の水環境学会「水環境文化賞」受賞団体である江津湖研究会会長でもあり、同会の機関誌を参加者に配布され、講演の補助資料としていただいた。

坂元隼雄先生には、水銀を例に超微量成分分析の難しさについて講演をお願いした。近年分析機器の発達により超微量分析が容易に可能となっているが、新たな分析上の問題点が生じている。試料の採取および保存方法、器具、試薬、実験室環境の影響、分析精度の問題など、実例をあげて分かりやすく紹介された。超微量成分を正確に、精度よく定量することの難しさ、重要性について考えさせられる内容であった。

年会在盛会で講演数が多く、18時過ぎまで講演があり、水環境集会開始時刻が遅くなってしまった。研究に対する考え方も貴重な示唆に富んだ講演であり、時間に余裕があればさらに突っ込んだ意見交換、論議ができたのではないかと残念であった。ざっくばらんな情報交換の機会が続けられることを期待したい。今回の講演が参考になり、今後の研究に少しでも活かしていただければ幸いである。

最後に、ご多忙の中、講演を引き受けていただいた九州東海大学梶田聖孝先生、鹿児島大学坂元隼雄先生ならびに集会の準備に協力いただいた関係者各位に心から感謝します。

(記：植木 肇 熊本県保健環境科学研究所)